むきばんだ弥生体験カード 15

守られた遺跡 ～文化財の保護について～

1999年４月９日、「妻木晩田遺跡の全面保存決定」が報じられました。大規模な開発から遺跡が守られた瞬間でした。

発掘がはじまる前、ここ妻木晩田遺跡の地にはゴルフ場が開発される予定になっていました。1995年から1998年にかけて、発掘調査を行った結果、全国最大規模の弥生集落であることが分かったのです。

遺跡の価値が明らかになるにつれ、たくさんの人々が遺跡を保護しようと市民運動を行い、妻木晩田遺跡の重要性についてうったえ続けてきました。「晩田山の自然を守る会」「晩田山の遺跡を守る会」「自然と遺跡と人間を考える会」による署名活動やイベント、多くの人々へ遺跡保存の大切さをうったえるシンポジュームも開さいされる等、保存運動の輪は大きく広がりました。そして、守る会と考える会等が行った署名活動は、全国的に展開され、署名が、５万５千人をこえるほどの大規模な市民運動となったのでした。

開発か、遺跡の保存か判断をせまられた、大山町、淀江町、鳥取県、開発を行う企業の４者は、その後も協議を重ねて、遺跡保存とリゾート開発の両方を並行して進めようとしました。しかし、国の史跡として指定を受けるにも、リゾート開発を進める上でも、その両立はできないとの判断から、ゴルフ場建設は中止されました。そして、1999年12月に国の史跡に指定され、現在に至るまで、鳥取県により遺跡の保存・整備が行われています。

今、妻木晩田遺跡は、地域の人々に大切にされてきた里山をふくめた野外博物館「むきばんだ史跡公園」として、整備・公開されています。

重要な遺跡でも保存されるものばかりではありません。色々な人々の努力によって残った遺跡を活かし、弥生時代の生活文化を身近に体感できる史跡公園として、これからもさらに充実した整備と活用が期待されているのです。

知事 今後業者と協議
淀江町長 共存方法を探る
大山町長 ゴルフ場が最善
妻木晩田遺跡群 保存それとも開発
知事が現地初視察
両町長、議会で答弁

1998年３月24日読売新聞掲載記事

弥生の楼閣に思いはせ
一般公開に妻木晩田遺跡群
住民、保存訴え看板

1998年5月24日朝日新聞掲載記事

妻木晩田遺跡群
全面保存で決着
西尾知事が表明
県が購入 京阪と覚書結ぶ

1999年4月10日日本海新聞掲載記事